



Ideas & Chemistry

2017.11.10

2017年度第2四半期 決算説明会資料



東洋紡株式会社

決算のポイント

上期実績

- 営業利益は 105億円 (1.5%減)、当期純利益は60億円 (65.3%増)
- “コスモシャインSRF”は増産対応に注力。包装用フィルムは原料高先行で苦戦
- バグフィルター用PPS素材は回復基調も、医薬受託、衣料繊維が減益

通期予想

- “コスモシャインSRF”拡大や包装用フィルム回復を見込み、営業利益は250億円に据え置き
- 当期純利益は、固定資産売却を踏まえ、190億円に修正

	16年度			17年度			直近予想 (2017/8)
	上期	下期		上期	下期		
売上高	1,647	1,648	3,295	1,614	1,786	3,400	3,400
営業利益	107	127	233	105	145	250	250
経常利益	87	119	207	91	129	220	230
親会社株主に帰属 する当期純利益	37	58	94	60	130	190	135

(億円)

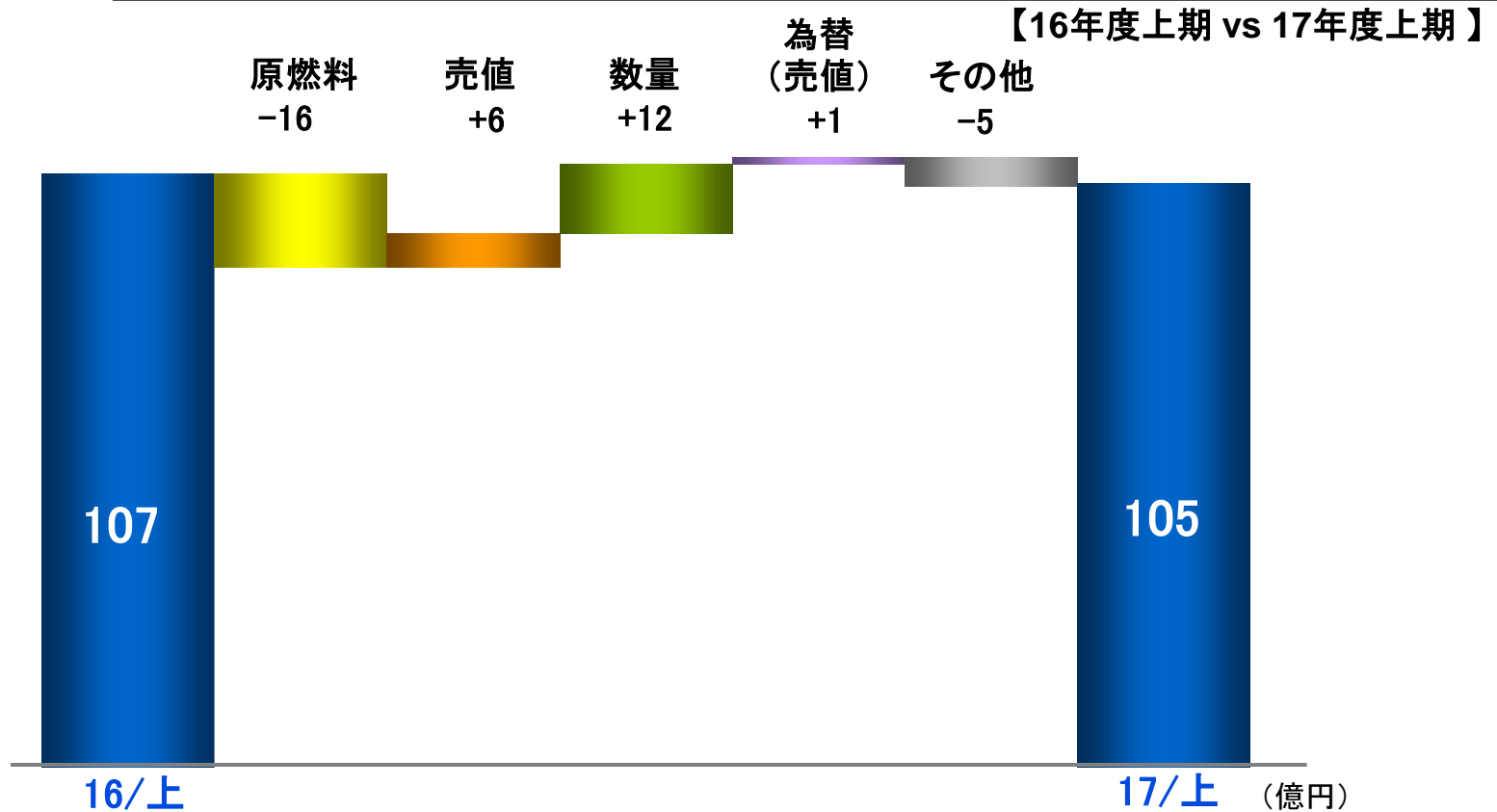
I . 2017年度第2四半期決算概況

(1) 決算概要 ①PL・CF

	(億円)					直近予想 (2017/8)
	16上	16下	17上	前年同期比		
				金額	率	
売上高	1,647	1,648	1,614	-33	-2.0%	1,650
営業利益	107	127	105	-2	-1.5%	110
(率)	6.5%	7.7%	6.5%	-	-	6.7%
経常利益	87	119	91	+3	+3.8%	100
親会社株主に帰属する 当期純利益	37	58	60	+24	+65.3%	60
※ EPS(円)	41.2	65.2	68.1	-	-	
減価償却費	73	76	78	+5	+6.7%	
設備投資	78	105	98	+20	+25.5%	
営業CF	106	162	128	+22	+20.3%	
為替レート(円/US\$)	105	112	111			
国産ナフサ価格(千円/KL)	32	38	38			

※株式併合後の値

営業利益増減要因分析（前年同期比）



	16上	17上
円レート (¥/\$)	105	111
国産ナフサ (千円/kl)	32	38

②BS

	(A)			(B)	(億円)
	16/3末	17/3末	17/9末	増減 (A)→(B)	
総資産	4,446	4,508	4,474	-34	
現預金	203	323	256	-68	
棚卸資産	753	728	718	-10	
純資産	1,601	1,709	1,772	+63	
自己資本	1,569	1,678	1,736	+58	
(利益剰余金)	395	459	491	+32	
非支配株主持分	32	31	36	+5	
有利子負債	1,654	1,692	1,633	-59	
D/E レシオ	1.05	1.01	0.94		

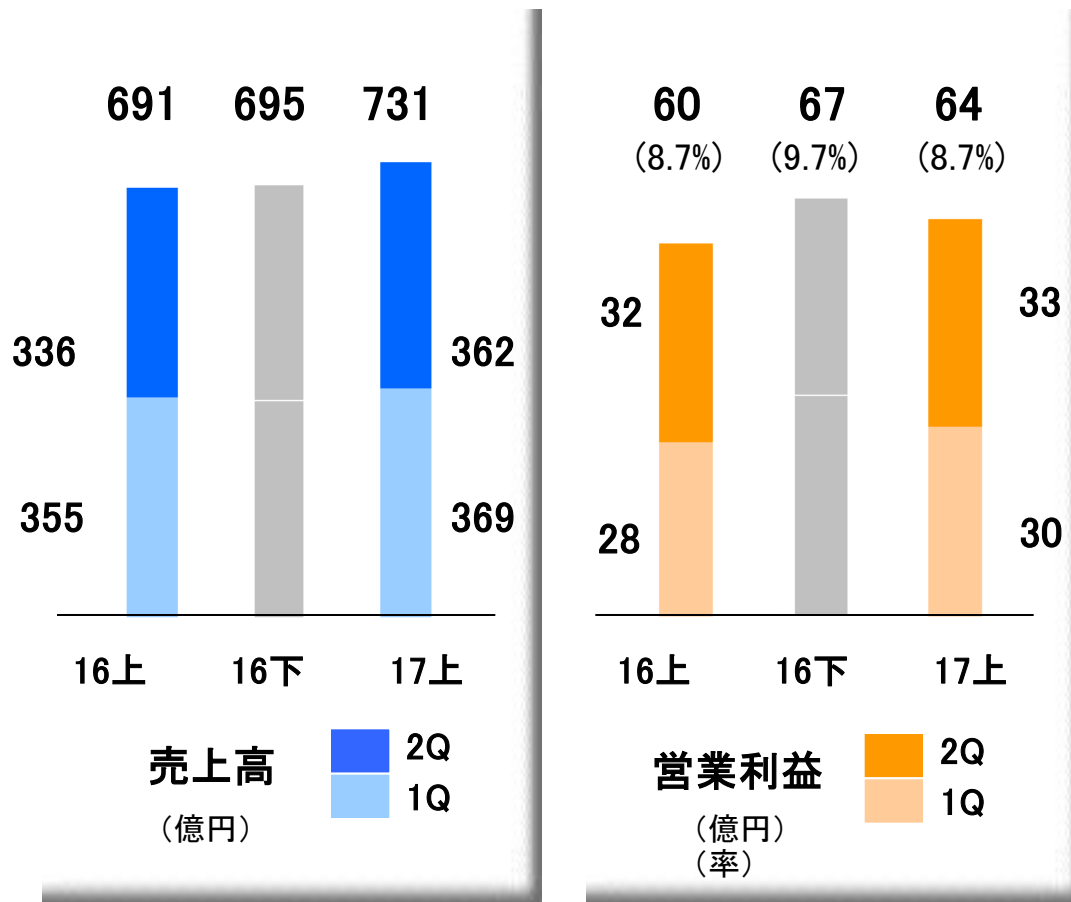
(2) セグメント別

(億円)

	売上高			営業利益			増減
	16上	16下	17上	16上	16下	17上	
フィルム・機能樹脂	691	695	731	60	67	64	+4
産業マテリアル	289	310	305	17	21	22	+5
ヘルスケア	180	185	163	22	30	17	-5
繊維・商事	398	377	338	4	6	-2	-6
不動産・その他	89	81	77	17	16	15	-2
消去・全社	-	-	-	-15	-15	-12	+3
合計	1,647	1,648	1,614	107	127	105	-2

① フィルム・機能樹脂

包装用フィルムは原料高先行で苦戦
 コスモシャインSRFは増産対応に注力。離型フィルムも販売拡大



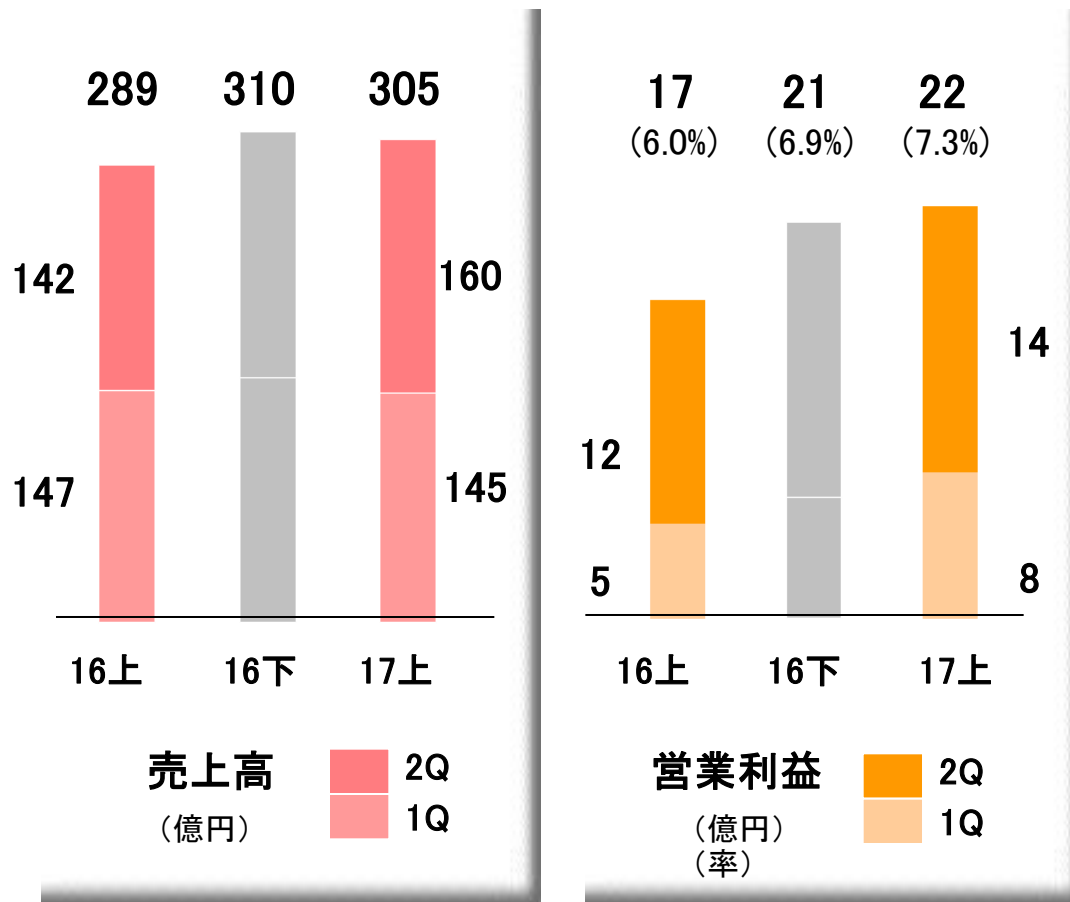
● 包装用フィルム
 ・原料高先行で苦戦

● 工業用フィルム
 ・コスモシャインSRFは増産対応に注力
 ・離型フィルムは販売拡大

● 機能樹脂
 ・インフラは国内自動車用途が好調
 ・バイロンは電子材料用途で販売拡大
 ・光機能材料は海外で好調

② 産業マテリアル

エアバッグ用基布は下期からの拡販準備進む
 バグフィルター用PPS素材は回復基調



● エアバッグ用基布

- ・下期からの拡販準備進む

● 生活・産業資材

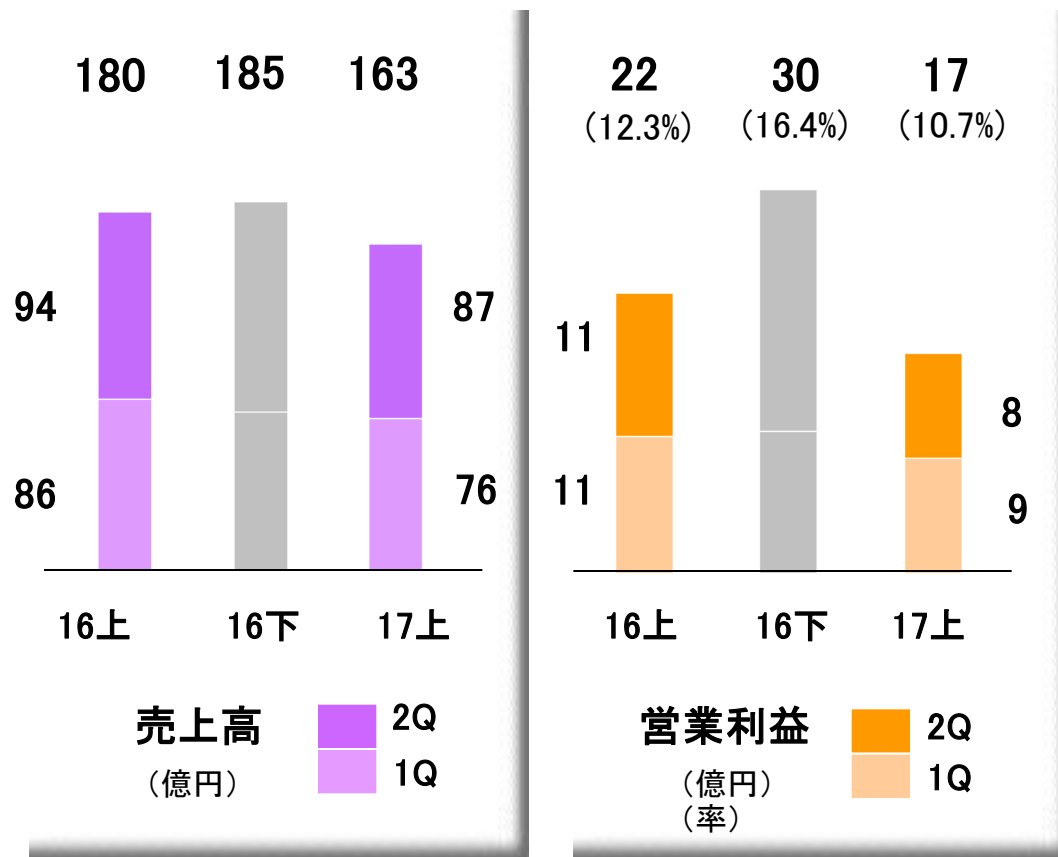
- ・PPS素材が回復基調

● スーパー繊維

- ・イザナスは新タイプの販売開始
- ・ツヌーガは手袋用途がアジアで堅調

③ ヘルスケア

バイオ・メディカル事業は医薬品製造受託が減益
機能膜・環境事業はVOC処理装置が拡大へ



● バイオ

- ・診断薬用酵素、ライフサイエンス試薬が好調

● 医薬品製造受託

- ・GMP対応費用を一括計上

● 機能膜

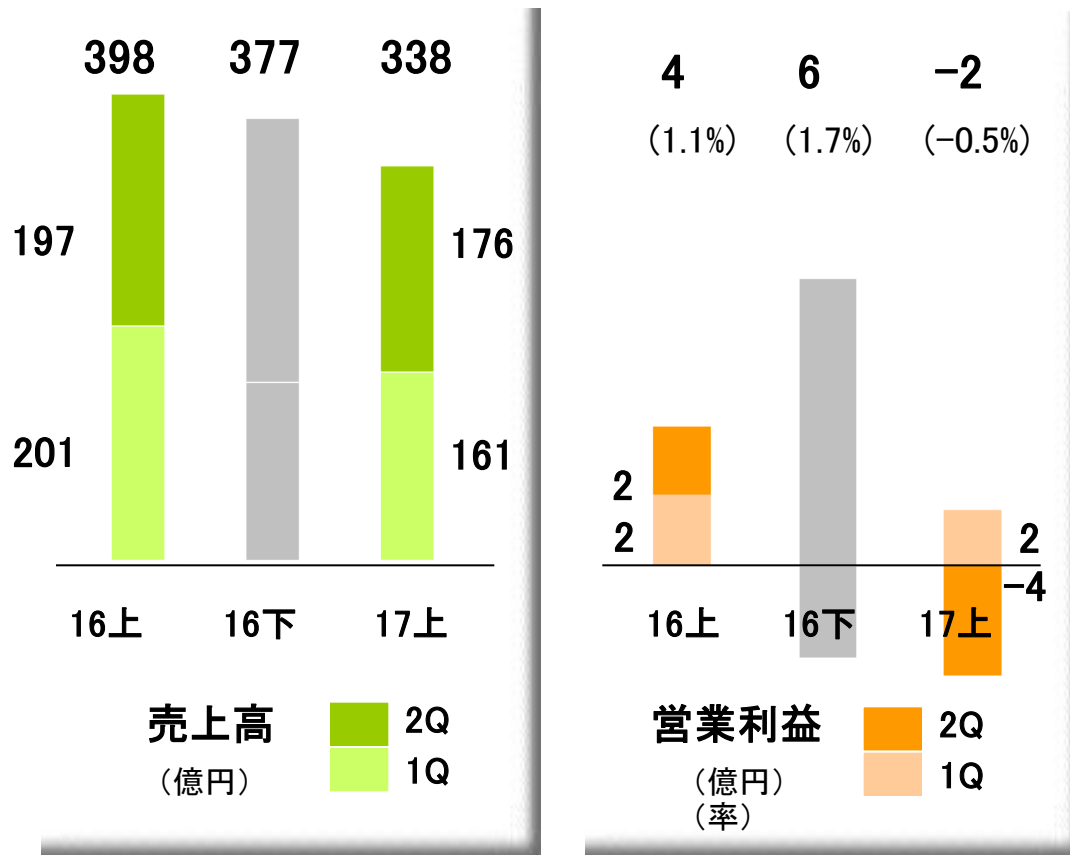
- ・医用膜は販売低調

● 機能フィルター

- ・VOC処理装置はアジア向け拡大へ

④ 繊維・商事

中東トープは中東情勢等により低調
スポーツ衣料製品の一部で苦戦



● 東洋紡STC(繊維)

- ・ユニフォーム用途は堅調
- ・中東トープは中東情勢等により低調
- ・スポーツ衣料製品の一部で苦戦

● アクリル繊維

- ・改革により回復傾向

Ⅱ. 2017年度業績予想

(1) 業績予想

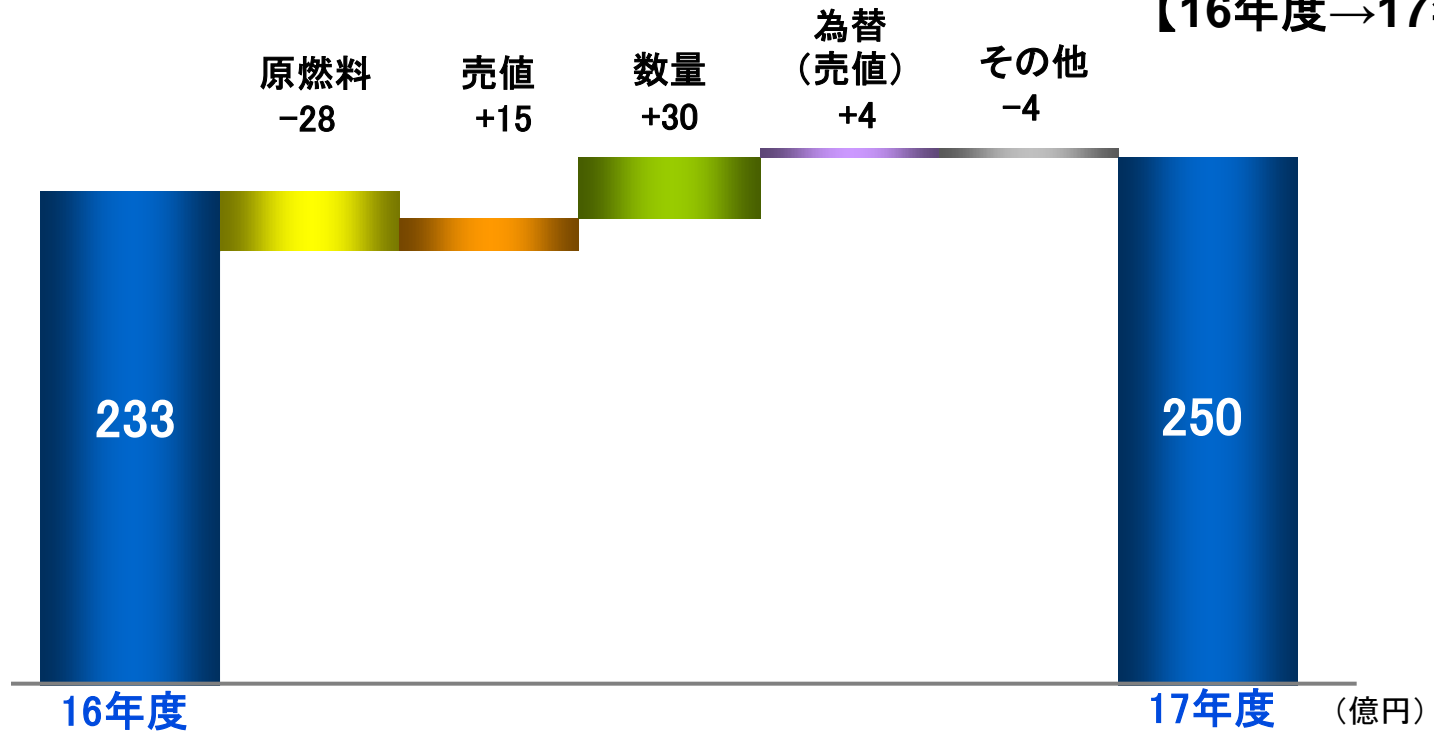
(億円)

	16年度実績	17年度予想		3,400	増減		直近予想 (2017/8)
		上	下		金額	率	
売上高	3,295	1,614	1,786	3,400	+105	+3.2%	3,400
営業利益	233	105	145	250	+17	+7.1%	250
(率)	7.1%	6.5%	8.1%	7.4%	-	-	7.4%
経常利益	207	91	129	220	+13	+6.5%	230
親会社株主に帰属する 当期純利益	94	60	130	190	+96	+101.2%	135
※ EPS(円)	106.4	68.1	145.9	214.0	-	-	15.2
減価償却費	149	78	80	158	+9	+5.8%	155
設備投資	184	98	92	190	+6	+3.5%	190
為替レート(円/US\$)	109	111	112	112			110
国産ナフサ価格(千円/KL)	35	38	43	40			42

※株式併合後の値

営業利益増減要因予想

【16年度→17年度】



	16	17
円レート (¥/\$)	109	112
国産ナフサ (千円/kl)	35	40

(2) セグメント別予想

(億円)

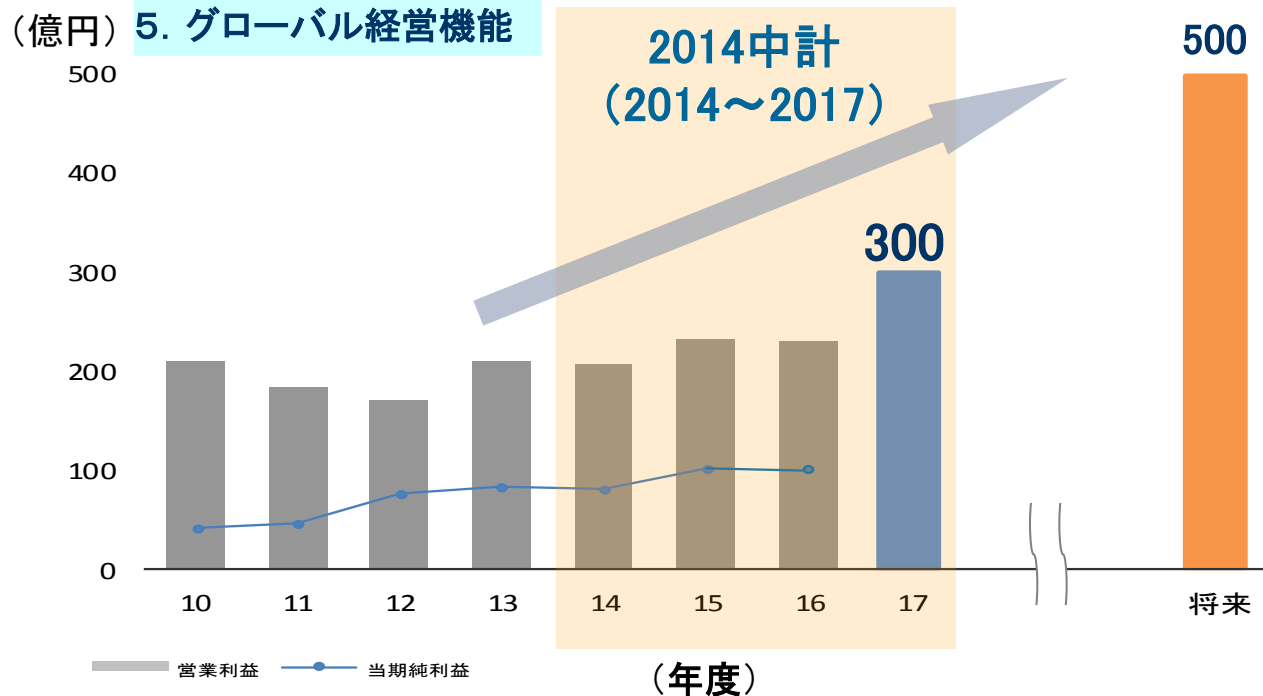
	売上高				営業利益				直近予想 (2017/08)
	16年度	17年度予想			16年度	17年度予想			
		上期	下期			上期	下期		
フィルム・機能樹脂	1,386	731	749	1,480	127	64	83	147	137
産業マテリアル	599	305	314	619	39	22	21	43	39
ヘルスケア	364	163	246	409	52	17	35	52	59
繊維・商事	776	338	405	743	11	-2	9	7	11
不動産・その他	170	77	72	149	33	15	12	27	33
消去・全社	-	-	-	-	-29	-12	-14	-26	-29
合計	3,295	1,614	1,786	3,400	233	105	145	250	250

Ⅲ. 2014年中計進捗

2014中計の位置付け

将来のめざす姿（売上高5,000億円・営業利益500億円）への成長軌道に乗せるための中計

- 1. 海外展開
- 2. 新製品
- 3. 競争力強化
- 4. 資産効率
- 5. グローバル経営機能



(億円)	
2017 年度目標	
売上高	4,200
営業利益 (益率)	300 7.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	140
ROE	8%
D/E(倍)	<1.0

アクションプランの進捗 (2017年度上期) ～海外展開加速～

1. 海外展開加速

■ エアバッグ用基布

- 2017年から4年間で100億円投資
- 世界5拠点、原糸から基布までの一貫生産体制へ
- 17年下期から増産



■ エンジニアリングプラスチック

- 2017年4月、インド現地法人設立
- 世界13拠点で拡販
- 海外売上高は4年間で70%増



■ 包装用フィルム

- 高機能包装用フィルムの海外拡販
- 透明蒸着フィルム“エコシール”から
 - 2種類のセラミックスを蒸着
 - 特長
 - 透明性
 - 安定したレトルト性
 - ガスバリア性と柔軟性を両立
 - 東南アジア大手フィルムメーカー TRIASと合併2社、2019年に営業開始



アクションプランの進捗(2017年度上期) ～新製品の拡大・創出～

2. 新製品の拡大・創出

■ 超複屈折ポリエステルフィルム “コスモシャイン SRF”

- ・ 大手向け中心に計画線で拡大
- ・ 特長:
 - 低吸湿性
 - ハンドリング性



■ FO膜(正浸透膜)

- ・ 用途:
 - 海水淡水化 浸透圧発電
- ・ 海外実証試験で優位性検証



■ 神経再生誘導チューブ “ナーブリッジ”

- ・ 適用症例数は着実に増加
- ・ 米国パートナー選定中



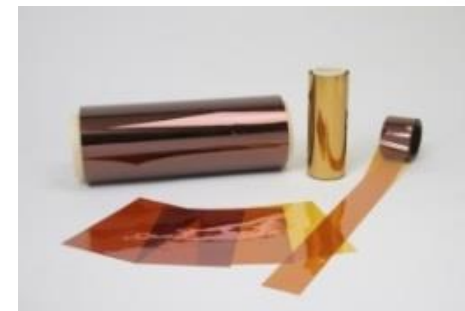
■ 骨再生誘導材

- ・ 歯科口腔外科領域
- ・ 2018年に製品化予定



■ 高耐熱フィルム “ゼノマックス”

- ・ 高耐熱性、寸法安定性に優れるポリイミドフィルム
- ・ TFT(薄膜トランジスタ)の基板材としてガラスを代替
- ・ 長瀬産業と生産・販売合併会社設立(2018年4月)



新中期計画(2018-21年度)の方向性

「成長力」と「安定性」を備えた
強い“東洋紡グループ”をめざし、次期中計を策定中

■ 強みを活かす

- コア技術 + スペシャルティ市場 (海外)

■ 資源の集中

- 事業峻別、強い事業の拡大

【短期】 ・工業用フィルム ・包装用フィルム
 ・エアバッグ ・エンジニアリングプラスチック
【中期】 ・再生誘導材料(神経・骨) ・分離膜(FO膜) 等

■ 他社との提携

- “TOYOBO GS Catalyst” 技術ライセンス
- 包装用フィルム 合弁会社 ● “ゼノマックス” 合弁会社
- バイオ樹脂PEF(ポリエチレンフラノエート) 海外ベンチャーと製造契約

■ 企業風土の変革

- 接戦を勝ち抜く



利益配分に関する基本方針

■ 株主さまへの利益還元は、企業にとって最重要事項の一つ

■ 剰余金配当決定の基本方針：

安定的な配当の継続を基本としつつ、
利益水準、将来投資のための内部留保、財務体質の改善
などを総合的に勘案し、総還元性向^(※)30%を目安として、
自己株式の取得を含めた株主還元を行う

(※) 総還元性向 = (配当総額 + 自社株買い総額) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益

■ 2017年10月1日

● 株式併合：1株←10株

● 単元株式数変更：100株←1,000株

1株当たり期末配当金は35円(←3.5円)に

■ 2017年度上期は、概ね計画通りに推移

1株当たり期末配当金：40円(←35円)に増配予定

ご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

補 足

訴訟関連

<概要>

- ① 03年6月、ザイロン繊維使用の防弾ベスト事故(米国ペンシルバニア)(貫通事故:1件)
- ② 事故被害者、同種ベスト購入者等が、防弾ベストメーカー、当社に損害賠償請求を提起
- ③ 防弾ベストメーカーの元取締役が米国不正請求禁止法に基づく訴訟を提起、
米国政府(司法省)がこの訴訟に原告として参加
- ④ 事故を起こしたメーカー以外の防弾ベストに関しても、米国政府(司法省)が訴訟を提起

<解決済みの訴訟—いずれも和解による解決>

- ・購入者からの集団訴訟—2005年10月
- ・事故被害者からの訴訟(PL関連訴訟)—2006年から2007年
- ・ドイツ州政府からの訴訟—2009年2月
- ・防弾ベストメーカーからの訴訟—2011年7月(2件)および2012年3月

<訴訟状況>

(2017.11.10現在)

	クラスアクション	PL関連	政府関係		防弾ベストメーカー			政府関係
原告	購入者	警官	アーカンソー州	米国司法省	セカンドチャンス	ポイントブラック	ファーストチョイス	ドイツ州政府
状況	和解成立 (05年10月)	和解成立 (06~07年)	訴状受取後 動きなし	証拠開示 手続済	和解成立 (11年2月)	和解成立 (11年7月)	和解成立 (12年3月)	和解成立 (09年2月)
件数	10件	4件	1件	2件	1件	1件	1件	1件